

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第16回運営委員会議事要旨

- 1 日 時 令和6年3月6日(水) 13時30分~14時30分
- 2 場 所 オンライン (Zoom)
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 事

### I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

#### 【審議事項】

#### (1) 令和6年度年間活動計画(案)について

遠藤副会長から、資料1に基づき次年度の活動計画について説明があり、次のとおり決定した。

#### 【決定済み】

- ・第27回幹事会 令和6年4月22日(月) 13:30-14:30 オンライン
- ・第7回総会&参画機関見学会 令和6年5月27日(月) 14:00-17:00 東京海上日動(千代田区大手町)
- ・第28回幹事会 令和6年7月24日(水) 13:30-14:30 オンライン
- ・単独開催シンポジウム 令和6年10月18日(金) 13:00-17:00 東京地区(場所未定)
- ・第29回幹事会 令和6年10月18日(金) 時間未定 ※シンポジウムと同日開催
- ・第30回幹事会 令和7年2月10日(月) 13:30-14:30 オンライン

#### 【未定】

- ・第17回運営委員会&参画機関見学会 令和6年11月 日時・場所未定(参画機関と個別相談)
- ・合同開催シンポジウム 令和7年2月 日時・場所未定
- ・第18回運営委員会&参画機関見学会 令和7年3月 日時・場所未定(参画機関と個別相談)

#### (2) コンソーシアムと筑波大生の交流企画について

遠藤副会長から、資料2に基づき交流企画の趣旨説明があり、企画内容・実施時期について意見交換が行われ、次のとおり合意された。

- ・各機関からの意見をふまえ、学位プログラムと幹事会で企画内容・実施時期を継続検討する
- ・6~7月に実施する場合には次年度早々に各機関との調整を行う

#### (主な意見)

##### 玄地委員(産業技術総合研究所)

産総研では従来の博士修了生に加え、今年度から修士修了生まで採用を拡大した。修士修了から入職した職員は10年以内に博士号を取得させたいことから、協働大学院を活用したい。これらを周知するためにも交流企画には参加したい。時期は特に問わない。

##### 甘利副会長(セコム)

交流企画ではリスク・レジリエンス工学学位プログラムの学生に限らず、システム情報工学研究群の学生に幅広く参加いただけると、企業の参加モチベーションが上がると思われる。

##### 柳生委員(日本電気)

インターンシップや採用にあたっては学生と企業のマッチングが重要と考えている。まずは学生の研究内容等を知ってから交流を開始したいと思う。

##### 秋山委員(NTT宇宙環境エネルギー研究所)

研究発表よりは「マッチング」が入った名称が分かりやすいと思う。当社の場合、博士の採用は年明けす

ぐ、修士は3月頃であるため、交流企画の実施時期は10~12月頃でも良い。

林委員（東京海上日動）

まずはM1のインターンシップ募集時期に合わせて実施するのが良いと思う。年2回開催できるのであれば、学部4年生も対象に含め10~12月に2回目を実施しても良いのではないか。

真城委員（東急総合研究所）

当社は新卒採用を行っていないが、グループ全体では筑波大卒者も一定数おり採用の可能性はある。交流会は良いアイデアであると思う。

舟橋氏（電力中央研究所）

例年どおりインターンシップの募集は行う予定。交流企画でインターンシップの紹介が出来るかどうかは担当者（山本氏）と要調整。

安部委員（日本自動車研究所）

毎年夏頃にM1のインターンシップを受け入れており、引き続き募集予定。インターンシップで多くの学生を受け入れることは難しいため、交流会を活用し、より多くの学生と交流することも検討したい。

福島委員（電子航法研究所）

インターンシップは毎年実施しているが、就職となかなか結び付かないのが現状。研究所の規模が小さいためインターンシップ担当者が少し疲弊している現状もある。去年から学部4年生を主な対象として8月末に半日程度の研究体験会を実施している。

松本氏（防災科学技術研究所）

インターンシップが採用を見越したものになるよう、制度の見直しをはかっているところ。具体的な募集内容については検討中のため引き続き情報共有していきたい。

岡部氏（労働安全衛生総合研究所）

基本的に研究者が個々に宣伝活動等を行っているため、その機会をいただけるのはありがたい。時期は特に問わないが、研究者個人との調整となる。

Li委員（台湾NCDR）

インターンシップは受入可能。今もアメリカの大学から短期訪問を受け入れている。NCDRは総合的な災害リスクマネジメントに関心のある学生にとっては理想的な学びの場であると考えており、学生からのコンタクトを歓迎する。

岡島委員（筑波大学）

各機関の業務内容・研究内容のみならず、採用に関する情報を大学に教えていただく場はとても重要。実施時期については引き続き検討したい。

### (3) その他

特になし

## 【報告事項】

### (1) 巨大災害研究会・R2EC合同シンポジウム開催報告

遠藤副会長から、資料3-1~2に基づき次の報告があった。

- ・東京・大阪・オンラインの3会場開催
- ・事前申込者数：280名（東京43名、大阪13名、オンライン224名）
- ・当日参加者数：約200名（集計後報告）

### (2) JST共創の場形成支援プログラム本格型昇格審査結果について

遠藤副会長から、次の報告があった。

- ・コンソーシアムが協力機関として関与していた「共創の場形成支援プログラム（共創分野・育成型）」の本格型への昇格審査が行われ、結果、不採択となった
- ・主な不採択理由：ビジネスモデルが明確でなかった
- ・共創分野・育成型 4 事業のうち本格型昇格は 1 件（東北大学）
- ・育成型期間で培った事業構想と産学官連携を活かし、今後新たな公募型事業等に応募予定

(3) 第 25 回幹事会 (R5.12.11) について

遠藤副会長から、資料 4 に基づき議事の報告があった。

(4) 第 26 回幹事会 (R6.3.4) について

遠藤副会長から、資料 5 に基づき議事の報告があった。

(5) その他

特になし

## II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

### 【報告事項】

(1) 令和 6 年度協働大学院教員及び非常勤講師について

岡島委員から、資料 6-1~2 に基づき次の報告があった。

- ・協働大学院教員：12 名全員継続予定
- ・非常勤講師：科目名変更あり（「セキュリティ論考特論」→「リスクと安心の科学哲学特論」）  
 ※変更理由：受講生から、情報セキュリティ分野に留まらない幅広い講義であることから、科目名を変更した方がより多くの学生の受講が見込まれるとの声があったため

(2) その他

- ・学位プログラムオープンキャンパスの開催について（4 月 21 日）  
 岡島委員から、次の報告、および依頼があった。  
 ✦ 4 月 21 日（日）に学位プログラムオープンキャンパスを開催  
 ✦ 参画機関で学位取得に興味のある方に周知いただきたい
- ・令和 5 年度博士前後期課程入試・修了者報告（参画機関関係）  
 岡島委員から次の報告があった。  
 ✦ 入試報告：後期課程 4 月入学予定者 14 名のうち、5 名が協働大学院教員を主指導教員に希望  
 ✦ 修了者報告：後期課程 11 名修了予定  
 うち 1 名が参画機関所属者であり、1 年間の早期修了プログラムを修了
- ・その他  
 遠藤副会長から、次年度以降の筑波大学の体制について、次のとおり内定した旨の報告があった。  
 ✦ システム情報工学研究群長：遠藤 靖典（再任）  
 ✦ 同研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー：岡島 敬一（再任）